



安保法成立1カ月

「行動 続けよう」

集団的自衛権の行使を容認する安全保障関連法制の成立から19日で1カ月になるのを前に、法制反対のうねりを巻き起こしてきた大学生らが18日、東京・渋谷で大規模な集会を開いた。

▶31面＝高校生も動く
主催した学生団体「SEALDs

(シールズ)」のメンバーが「諦めることなく、民主主義のために行動し続けよう」と訴えると、ハチ公前広場を埋めた人から大きな歓声が上がった。野党5党の党首らも参加。ラップグループ「スチャダラパー」も登場した。

(市川美亜子、写真は関田航)

高校生「政治語りしたい」

大学生のうねり受け街頭へ

9月19日未明に安全保障関連法が成立して1カ月。反対を訴える街頭のうねりの中心となった大学生らに刺激を受けた下の世代にも、裾野は広がった。来年夏の参院選で、一票を投じる当事者となる高校生たちも、日常生活で学び、声を上げ続けている。▼1面参照

安保法成立1カ月

18日、大阪・ミナミであった「民主主義をとりもどせ！ DEMO」で、市内の高校3年の男子生徒(17)が音楽に合わせてラップ調で「みんなの願い、選挙で実現」「選挙に行こうよ」と訴えた。

関西の高校生を中心に約20人が集う「ティーンズソウル ウェスト」の一人。関東の高校生が「ティーンズ ソウル」を結成したのに続き、8月に設立した。これまで学生団体「SEALDs」KANSAS EALDs KANSAS

画。「みんなが政治に関心を持って、投票などの行動に移すきっかけをつくりたい」

一方、9月に安保法に反対する高校生グループ「SCHOOL OF DEMOCRACY IN KYOTO」(スクデモ京都)を立ち上げた京都市の高校2年の男子生徒(17)は「いま、高校生が政治や選挙を学ぶため文科省がつくった副教材を読んでいる。模擬投票を企画するために参考にしたいという。」

政治に関心を持ったのは中学生のころ。投票率の低さを知り、「投票に行かないのに政治に文句を言う大人はおかしい」と思った。6月以降、シールズ関西の街頭活動に5回ほど参加。9月19日に主催した初めてのデモには約30人の高校生が集い、「自分だけじゃな



い」とわかって安心したという。「もっとみんなと政治について語りたい」(沢木香織)

奥田さん、中心にならず

脅迫文届き、デモ見守る側に

東京・渋谷で18日あった学生団体「SEALDs」主催の集会。国会審議姿を見せなかった。安保法

安保法制に抗議の声を上げながら歩く人たち。先導車の上からは高校生(右から2人目)も声を上げた。18日午後7時2分、大阪市中央区、内田光撮影

成立直後に本人と家族を「殺害する」との脅迫文が届き、大学で警察の警備がついたこともあった。「僕が行くと、警備の人たちもいなきゃいけない」と不参加も考えた。

だが近くから見守ることに。最後には短く壇上に立ち「民主主義って何だ!」とコール。「やれることをやっつけていきましょう」と訴えると、拍手が鳴り響いた。今は図書館に通う日々。

大学院進学のためだけではない。「勉強しないと、自分の言葉がどんどんスッカラカンになっていくから」だ。今後については「それぞれが自分たちの日常の中で何ができるか。主体的に動いていくしかない」と語る。25日には、安保法制に反対する憲法学者らとシンポジウムを共催する。来年の参院選に向けて何ができるか、その後はどうするか。思いを巡らせている。

(市川美亜子、後藤遼太)